



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 121) uniwish48号
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2025年8月)
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
Facebook <http://www.x.gd/SJIJA>



2025年も世界で脅かされる子どもの命

紛争

ガザ地区で「飢きん」が確認される。最も深刻な段階へ！

ユニセフなど国連機関

即時停戦と人道アクセス呼びかけ

【2025年8月22日ローマ／ジュネーブ／ニューヨーク発】

新たに発表された総合的食料安全保障レベル分類(IPC)の分析によると、パレスチナ・ガザ地区で**50万人以上の人々が飢きんに陥り、広範な飢餓、極度の貧困、予防可能な死が発生しています**。飢きんは今後数週間のうちに、ガザ県からデルバラハ県とハンユニス県に拡大すると予測されています。こうした事態を受け、ユニセフ(国連児童基金)など国連機関は、飢きんと栄養不良による死を防ぐための即時停戦と妨げのない人道アクセスをあらためて要請しました。



© UNICEF/UNI812916/Elder
ガザ地区ハンユニスにある病院で、重度の栄養不良に苦しむ5歳のオサマちゃん。体重はわずか5キロしかない(パレスチナ、2025年6月5日撮影)



ガザ地区内で支援物資を配布する場所にて、食料を求める人々の様子(パレスチナ、2025年7月16日撮影)

© UNICEF/UNI845957/Nateel
深刻な水不足が続くガザ地区の難民キャンプで、給水車の到着を辛抱強く待っている家族の様子(パレスチナ、2025年8月11日撮影)

気候変動

気候変動や自然災害による 命の危機 !

気候変動による影響気候危機で極めて高いリスクにさらされている子どもの数10億人以上。その大半が、くり返し襲う災害から身を守るすべを持たない、貧しい国々の子どもたち。

赤ちゃんのハソンは、干ばつの影響で食べ物がなくなり深刻な栄養不良に



過去40年で最悪の干ばつに見舞われているアフリカ・ザンビア。干ばつで井戸も畑も枯れて食べ物がなくなり、多くの子どもがひどい栄養不良に。病院には子どもが次々と運ばれ対応に追われています。

アフガニスタン東部の地震、子ども含む多数の死傷者、ユニセフ、緊急支援

【2025年9月1日カブール(アフガニスタン)発】

© UNICEF/UNI856119/Zahir,
マグニチュード6.0の強い地震で、多くの子どもたちがけがを負った(アフガニスタン、2025年9月1日撮影)



食糧危機

食糧危機による飢餓 !

食料価格の高騰などによる低所得国への打撃 !

【2025年月28日アディスアベバ(エチオピア)発】

アフリカと西アジアでは、長期的な食料危機に直面している多くの国々を含めて、飢餓が着実に増加し続けています。2024年時点で、アフリカで飢餓に直面する人口の割合は20%を超え、3億700万人が影響を受けています。一方、西アジアでは2024年に人口の約12.7%、つまり3,900万人以上が飢餓に直面した可能性があります。

© UNICEF/UNI806119/Franco
カーボデルガード州の農村地帯で、子どもの発達や栄養について学ぶ集まりに、1歳半の息子連れて参加した父親(モザンビーク、2025年4月3日撮影)



2015年9月採択された「持続可能な開発目標」の達成期限は、2030年まであと5年、達成の見込みは！！

【ニューヨーク、7月14日】「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択から10年が経過し、国連は本日、10回目の年次進捗報告となる『持続可能な開発目標(SDGs)報告2025』を発表しました。報告書は厳しい評価を下すとともに、行動を起こすよう強く呼びかけています。

- ◆SDGs は過去10年間で何百万もの人々の生活を向上させたが、前進は依然として不十分。
- ◆残された5年間にSDGsを成功に導くには 国際協力と持続的な投資が不可欠。

【SDGs達成度ランキング】日本、2025年は世界19位に後退 6目標が最低評価

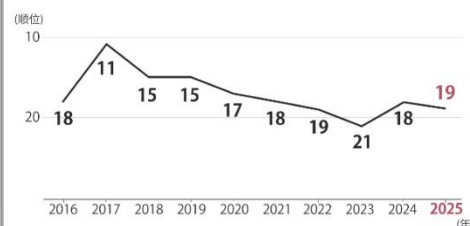
SDG Dashboard and Trends



17の目標ごとに評価された日本のSDGs達成状況。アイコンの背景色は、緑が「達成済み」、黄色が「課題が残る」、オレンジが「重要な課題がある」、赤が「深刻な課題がある」

(出典: Sustainable Development Report 2025 p.232)

日本のSDGs達成度ランキングの推移



【達成済み】(SDG achieved) = 一つ
・目標3「すべての人に健康と福祉を」

【深刻な課題がある】(Major challenges) = 六つ …… 判定理由

- ・目標2「飢餓をゼロに」……動物性食品の摂取量の多さや、持続可能な窒素管理指数のデータに深刻な課題。
- ・目標5「ジェンダー平等を実現しよう」……国会議員(衆院議員)の女性比率の低さと男女の賃金格差。
- ・目標12「つくる責任、つかう責任」……電子機器のごみの量や、プラスチックごみの輸出量の多さ。
- ・目標13「気候変動に具体的な対策を」……化石燃料の燃焼やセメント製造にともなう二酸化炭素(CO2)排出量。
- ・目標14「海の豊かさを守ろう」……過剰漁獲や生物多様性が保全されている地域の割合が低い。
- ・目標15「陸の豊かさを守ろう」……過剰漁獲や生物多様性が保全されている地域の割合が低い。



ユニセフ「レポートカード19」 先進国の子どものウェルビーイング(幸福度) “コロナ禍後、急激に悪化”

【2025年5月14日
フィレンツェ／ニューヨーク／東京発】

日本の結果は ◆日本の「子どもの幸福度」の総合順位は36カ国中14位でした。(前回:総合順位は、38カ国中20位)

ユニセフ・イノチェンティ研究所の報告書「レポートカード19: 予測できない世界における子どものウェルビーイング」は、2018年と2022年の主要データを比較し、新型コロナウイルス感染症や世界規模の社会経済活動の抑制が、経済協力開発機構(OECD)および欧州連合(EU)の加盟43カ国の子どもにどのような影響を与えたかについて見解を示しています。

比較可能な5年前のレポートカード以降も、オランダとデンマークは、精神的幸福度、身体的健康、スキルの指標によると、子どもが暮らす場所として最も順位の高い国の上位2位以内の座を維持し、フランスがそれに続きました。

一方で、パンデミック後、多くの国で子どもの学力、特に読解力や数学の基礎的な学力が急激に低下したと報告書は警鐘を鳴らしています。

表 1. RC16 と RC19 における日本の主な調査結果

分野	指標	2018 年	RC16 の順位	2022 年	RC19 の順位
精神的幸福度	生活満足度が高い 15 歳の割合	62%	37 位	71%	32 位
	15~19 歳の自殺率*	7.37		10.41	
身体的健康	5~14 歳の子どもの死亡率	0.77	1 位	0.72	1 位
	5~19 歳の過体重の割合	15.0		16.3	
スキル	数学・読解力で基礎的習熟度に達している 15 歳の割合	73%	27 位	76%	12 位
	すぐに友達ができると答えた 15 歳の割合	69.1%		74.8%	

*この指標のデータは、最新と前回の両方の値を参照しています。

出典: UNICEF

主催：佐賀県ユニセフ協会

共催：佐賀新聞社

2025 ユニセフのつどい

子どもは未来の宝物

「こどもまん中社会」を
めざして、まず知ることから始め
ましょう。

『みんなで知ろう！子どもの権利』フォーラム in SAGA

～子どもの身近にいるあなた、知っているようで、知らない子どもの権利について、
子どもたちの声を聞きながら、一緒に学んでみませんか～

中学生も、高校生も、先生も、保護者も、大人も、みんな集まってくださあ～い！！
「こども真ん中社会」を作るために、あなたの意見を聞かせて！！

2025年 11月9日（日）

<時間> 13:30～15:00 受付13:00

<会場> 佐賀新聞社 5階 大会議室

大谷先生が
やってくる！



【大谷美紀子さんのプロフィール】

- * 弁護士
- * 国連子どもの権利委員会元委員長
- * 日本ユニセフ協会理事

* 1964年11月18日生まれ、大阪府出身。1987年に上智大学法学部国際関係法学科を卒業。1990年に弁護士登録を受けてから、国際人権問題に取り組んでこられました。2017年からは国連子どもの権利条約委員会の委員となり、2021年から2023年までは日本人で初めて委員長を務められました。現在は、日本ユニセフ協会の理事として活躍されています。

子どもにも権利があるの？
大人と同じ権利だけで
大丈夫？

大谷先生は、NHKEテレビ放送の「子どもの権利プロジェクト」にも出演中。



ユニセフ・子ども家庭庁
共催キャンペーン

「子どもの権利」豆知識 コーナー？

条約に入った国は、どうやって
「子どもの権利」を守まもっていくの？



【国際連合の総会議場】

国連子どもの権利委員会
さまざまな国の専門家18人で構成



「人権」ってどんなもの？

- ・すべての人に人権があります。
- ・生まれた時から人権があります。
- ・人権を奪い取ることはできません。
- ・人権は無条件にあるものです。全ての権利が同じように大切です。

「子どもの権利条約」はどうして
できたの？

誕生したのは1996年のことです。
国際連合の総会で、全ての国が
賛成して成立しました。日本も、
1994年に この条約に入りました。
世界で196の国が条約に入っ
ています。

「子どもの権利条約」の父 コルチャック先生 はどんな人？

ヌシユ・コルチャック先生(1878-1942)は、ユダヤ系ポーランド人のお医者さんで、作家で、孤児院の院長先生でした。先生の孤児院は、子ども達による自治で運営されていました。先生は、一人一人の子どもの権利を大切にする教育を30年にわたって実践しました。当時、それはとても新しく、めずらしいことでした。



◆121回 有田陶器市 今右衛門窯玄関前で 募金活動と広報活動 5月3（土）
10：30～15：30



【第14代今右衛門様の御協力により、毎年、玄関前や倉庫前で募金活動をさせてもらっています】



ゴールデンウィークに「第121回有田陶器市」が有田町で開催されました。

今年は天候に恵まれたこともあり、4月29日～5月5日までの総合計は約114万人と発表されました。国内や海外からも焼き物ファンが続々と訪れ、4キロの通り沿いには、500を超える窯元と露店が立ち並び大賑わいでした。

ユニセフからは「ミャンマー地震緊急募金」を行い、パネル展示、ミニバザー、子どもたち向けのバルーンアートなどで広報を行いました。また、今右衛門窯の職員様からは暑い中の募金活動への労いの言葉なども頂き、感謝をしています。

*募金額は、**¥118,700円**となりました。

◆第29回 ユニセフチャリティバザー
5月18日（日） 14：00～15：30

佐賀県ユニセフ協会では、今年も佐賀玉屋様のご協力、南アーケードをお借りし、「ミャンマー地震で被災した子ども達を 助けたい！」をキャッチコピーに『ユニセフチャリティバザー』を行いました。

県内外の支援者様から、4000点ほどのバザー品が集まりました。活動は、高校生や一般のボランティアさんを募り、バザーと募金活動を並行して行いました。

*チャリティバザー及び募金 **総額 ¥171,686 円**

*ボランティア協力者・・・47人 ありがとうございました。



竹下製薬株式会社



【高校生がかごに入れて販売】



『竹下製薬』様からのお菓子のバザー品提供、ありがとうございました。
「ぶどうのマシュマロ」はいかがですか。



【立正校成会の皆さんも毎年ボランティアで参加】



◆第41回 鹿島ガタリンピック
6月8日（日） 12：00～16：00



【ガタリンピック会場の様子】



【海面上昇のキリバス紹介】

当日の人出は25000人、競技参加者は1300人。外国からは10か国、約70人程が参加されました。ユニセフからは、「潮とともに生きる」気候変動で海面上昇の危機にあるキリバスの写真展示をしました。

◆コープさが生活協同組合員様から募金贈呈 7月24日（木） 11：00

【コープ生協から
松本会長、中原
理事長、吉田専
務が 出席】



『東ティモール指定募金』として松本美和子会長様から、**¥944,721円**が佐賀県ユニセフ協会中尾清一郎会長へ贈呈されました。東ティモールへの支援は、もう20年続けられています。

* 7/1(火)18:30

* GEILS にて入場無料

* 参加者 120人

* 募金額 ¥122,797 円

チャリ
ティ
ライブ

「すべての子どもに平和な世界を！」

「木原慶吾 & スピリッツ」と仲間の皆さんが、
『チャリティ LIVE』で支援

～STOP THE WAR～

【木原慶吾さんからのメッセージ】

世界中の子ども達が平和に暮らせるように…
1日も早い戦争の終結を祈るばかりです！
1人1人の意からは微力でも 音楽のちからで！！



【会場は満席！！】



【木原慶吾 & スピリッツ】



【アンサンブルパストラレ】



【 Three M 】



【 Mellow Yellow 】



【内山敬太fromケイタク】

ライブには平日の夜にも拘らず、ユニセフを応援してくださる方々がなんと100名以上お出でくださいました。満席で大いに盛り上がりました。オープニングは木原さんの“フライアップトゥザスカイ”に始まり、「佐賀県ユニセフ協会の30年のあゆみ」の動画でユニセフのこれまでの支援活動を見ていただきました。そして、5組のアーティストグループによる演奏が続きました。

クラシック音楽からロックバージョン、語りとオリジナル楽曲の披露まで、会場が音楽で1つになり“STOP THE WAR！”平和な世界が一日も早く来るように祈りました。

一言感想

- ・はじめてライブハウスに来ました。広くて音響やライトの設備も素晴らしく興奮しました。
- ・ユニセフとミュージシャンとのコラボで「STOP THE WAR！」を呼び掛ける企画はこれからももっとやってほしい。
- ・5つのグループによる、クラシック音楽やロック、洋楽、語りと自作の音楽などを一気に楽しめました。
- ・音楽の力で、“一日も早く平和な世界になる”ことを祈っています。

..若者広場.. Let's Do Unicef



「核兵器廃絶を
訴えたい。」

第27代高校生平和大使
佐賀県立武雄高等学校
3年吉田光里よしだみさとさん

話の概要

佐賀県ユニセフ協会では、若者とユニセフを繋ぐ“Let's Do Unicef”を様々な形で実施しています。今年、『終戦から80年となり、戦争・平和について考えよう』というテーマで、第27代高校生平和大使を迎え、お話を聞きました。

*この活動に興味を持ったのは小学生の時、ユニセフの様に「困っている人を助けたい」と思っていた。
* やって良かったことは、日本の高校生の仲間とスイスに派遣され、核兵器の廃絶と世界の平和を願う「高校生1万人署名」提出してきたこと。国連軍縮会議の傍聴やジュネーブ安大切さを再認識した。小中学校へ行き平和の大切さを話したり、高校の文化祭などでアピールをしたりして話を聞いてもらった事などが印象に残っている。

* 皆に訴えたいことは、「あなたが思う平和ってどんなこと？」日本でも貧困やいじめなどがある。皆が安心して暮らせるように考えてほしい。長崎や広島の前爆の話を知ることが大切。そして、若い人たちが戦争反対を語り継いでほしい。

【参加生徒 34人】



② 7/26 ユニセフ ボランティア カフェ ～切手整理のボランティアをしよう～

《使用済切手の整理ボランティア人に参加して》

○小中高校生や一般の方、スタッフ合わせて40名程で切手の整理をしたが、初めて会う高校生や大人の方と色々な話をしながら1枚1枚丁寧に整理をして楽しかった。

○皆で整理した切手が、業者の方に買ってもらい、「困っている子どもたちを助ける」ことに繋がっていることでやり甲斐を感じた。



【使用済切手整理をする高校生ボランティア】



- 4月19日(土)サガン鳥栖の試合会場にて 13:00~14:15
 *試合結果➡ サガン鳥栖 VS レノア山口 2点对2点
 *「募金活動」及び「パネル展示」
 テーマ「ミャンマー地震緊急募金」
 ~ミャンマーで地震の被害を受けた子ども達を助きたい~
 *ボランティア参加 **総勢60人**
 (1)鳥栖の弘堂国際学園 日本語学校の留学生の皆さん34人
 (2)三養基高等学校あすなろ部の生徒さん20人
 (3)ユニセフスタッフ6人 <駅前不動産スタジアム> **★募金額¥261,768円**



- 4月22日(火)鳥栖市まちづくり協議会様から ペットボトルの蓋 寄贈
 (田代地区、若葉地区、鳥栖市役所・市民協働課の協力)
 <鳥栖市役所>



- 5月3日(金)第121回 有田陶器市会場での募金活動 10:30~15:00
 *テーマ:ミャンマー地震緊急募金
 *ボランティア:佐賀大学学生、西九州大学学生、一般、スタッフ
★募金総額 ¥118,700円
 <今右衛門窯さんの協力で店舗前にて> **【詳細はP4に掲載】**



- 5月11日(日)6月11日(水)、7月11日(金)、8月11日(月)
 「イエローレシート キャンペーン」14:00~15:00
 <イオン佐賀大和店にて>



- 5月18日(日)第29回ユニセフチャリティ バザー 14:00~15:30
 *テーマ:「ミャンマー地震で被災した子ども達を助きたい!」
 チャリティバザーと募金活動
 *ボランティア:高校生や一般の方々 47名<佐賀玉屋南館アーケード>
 *提供品:主旨に賛同いただいた皆様から約4000点が集まる
★募金総額 ¥171,686円 (会場を貸していただいた佐賀玉屋従業員一同様からの¥37,450円の寄付も含まれる) **【詳細はP4に掲載】**



- 5月26日(月)田口電機工業株式会社様から「ユニセフ募金」贈呈 13:00~13:30
 田口英信社長様から佐賀県ユニセフ協会事務局長へ贈呈 **★¥30万円贈呈**
 <田口電機工業様 応接室にて>



- 6月8日(日)鹿島ガタリンピック 12:00~16:00
 *募金活動 鹿島市立東部中学校生徒さん達
 *広報活動 「ミャンマー地震緊急支援」パネル展示
 *子ども対応のゲーム(SDGs輪投げ・バルーンアート)
 *ミニバザー & 募金活動 <鹿島七浦海浜公園> **【詳細はP4に掲載】**



- 7月1日(火)ユニセフ『チャリティライブ』開催~すべての子どもに平和な世界を~ 18:30~21:00
 主催:佐賀県ユニセフ協会 <<Stop The War!!>>
 共催:木原慶吾&スピリッツ
 会場:「LIVE HOUSE GEILS」 **【詳細はP5に掲載】**



- 7月8日(月)武雄市立武雄小学校 募金贈呈 13:00~13:30 <校長室>
 ボランティア委員会の児童の皆さんが6/21から2週間、
 全校児童に呼びかけ募金活動を実施 **★募金額 ¥10,567円**



- 7月11日(木)イエローレシートキャンペーン15:00~16:00
 呼びかけ内容「紛争地域や貧困で苦しむ子ども達を助きたい」
 <イオン佐賀大和店>

◆神崎市ドリームパーク 【新テーマ：『もったいないを考えよう』⇒牛乳パックで舟づくり】

- 6月25日（水）西郷小学校 28人 14：50～16：00 28人
○7月 2日（水）仁比山小学校 夢組 15：00～16：10 20人
○7月 9日（水）仁比山小学校 星組 15：00～16：10 20人



- 7月17日（木）佐賀県立盲学校 高等部 「使用済切手、ペットボトルの蓋」贈呈14：00
＊ユニセフを支援する母子草へ贈呈 ①使用済切手・・・2.3kg
②ペットボトル蓋・・・44.2kg 等

- 7月18日（金）小城市立岩松小学校 募金贈呈 8：30～9：30
＊募金活動 6月21日から2週間、放送でガザやウクライナへの募金呼びかけ
＊「ユニセフ教室」⇒“募金の行方”
★募金額 ￥4,737円 <岩松小学校>



- 7月26日（土）Lets Do Unicef! 「夏休み やってみよう切手整理ボランティア」13：30
※活動テーマ「終戦から80年、戦争・平和について考えよう」
①第27代 高校生平和大使の話の聞こう。
②切手整理ボランティアをしよう。41人参加 【詳細はP5に掲載】
<佐賀市青少年センター 大会議室>



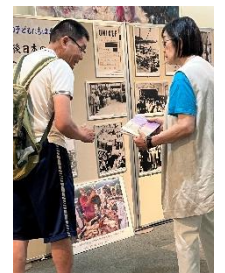
- 8月7日（木）「2025 ピースアクション in さが」10：00～12：00
募金活動 広報活動
（地雷レプリカ、「ガザ地区とウクライナの子供達」）
<アバンセホール>



- 8月8日（金）「2025 ピースアクション in ナガサキ」10：00～12：00
『被爆・戦後80年 平和とより良い生活のために
～ナガサキ『戦争も核兵器もない平和な世界』の実現を～』
会場：長崎市民会館、
内容：パネル展示、支援物資紹介、ユニセフすごろく



- 8月9日（土）～13日（水）第34回 佐賀市平和展
＊広報活動（地雷レプリカ、「ユニセフの戦後日本の
子どもたちへの支援」の展示）
＊切手整理ボランティア <佐賀市立図書館 2階>
＊「佐賀空襲」本の無料提供（坂田艶子様より）



- 8月23日（土）長崎市新大工町商店街夏祭りでの募金活動・広報活動
＊「ガザ地区の子供達」パネル展示 17：00～19：00
＊「SDGs わなげゲーム」 <新大工町商店街>



ご支援
ありがとうございます

ボーイスカウト有田第1団、佐賀リハビリテーション病院・智仁会、コープさが生活協同組合、平尾建築コンサルタント事務所、
（株）田口電機工業、ユニセフを支援する母子草、ゆめっこ保育園、唐津市立佐志小学校、武雄市立武雄小学校、小城市立
岩松小学校、

武雄市泰林寺浄土真宗本願寺派多久組仏教婦人会様、大塚製薬（株）佐賀工場環境安全課様、佐大医学部基礎研究棟様、
サンテ溝上様、佐賀市立図書館様、社会福祉法人伊万里市社会福祉協議会様、諫早市社会福祉協議会様、佐賀市役所高
齢福祉課包括支援係様、ゆめプラット小城様、コープさが新栄店様、新栄公民館様、佐賀リハビリテーション病院様、鳥栖市民
活動センター様、鳥栖・若葉地区まちづくり推進協議会様、鳥栖・田代地区まちづくり推進協議会様、鳥栖北まちづくり協議会
様、基里地区まちづくり協議会様、佐賀新聞社様、佐賀市役所こども家庭科様、佐賀県立盲学校様、佐賀県立鳥栖高等学
校・香楠中学校様、鳥栖市立鳥栖小学校様

（順不同：2025年4月21日～2025年8月31日）

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄での
ご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。





(諫早市社会福祉協議会 寺井雄一会長からユニセフを支援する会「母子草」へ使用済み切手の贈呈)



諫早市社会福祉協議会広報紙より

<諫早市社会福祉協議会の紹介>

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らしていけるまちづくりを目指しています。

地域住民をはじめ、社会福祉施設や企業など、様々な人や団体・機関がつながり、地域の課題を共有し、お互いにできることを生かしながら、支え合い、助け合う仕組みづくりに取り組んでいます。

諫早市社会福祉協議会の活動紹介

基本理念「一人ひとりの個性を尊重し、地域とともに支え合い、みんなでつくろう私たちのまち」

◎地域でつながり支え合う人をつくる

福祉に対する理解を深める啓発や福祉教育を通じて、思いやりの心を育んでいます。また、ボランティア活動を広げること、地域で支え合う人づくりに取り組んでいます。

◎共に支え合う地域をつくる

地区社協の活動や交流の場づくりを進め、住民同士の見守りや生活支援など支え合い、助け合いのネットワークを広げています。また、災害ボランティアの養成や災害ボランティアセンターの整備にも取り組んでいます。

◎困りごとを解決する仕組みをつくる

気軽に相談できる窓口として、多様な機関と連携しながら解決に取り組んでいます。また、判断能力が不十分な人への権利擁護や福祉サービス利用のための支援を進めるとともに、地域課題の解決に取り組んでいます。

諫早市社会協議会様と佐賀県ユニセフ協会とのつながり

諫早市社会福祉協議会様からは、令和4年度から毎年、今年も、市民の皆様へ呼びかけて集まった使用済み切手を佐賀県ユニセフ協会へ寄贈してくださいました。使用済み切手72kg(A3の紙が入った箱12箱分)外国コインとペットボトルの蓋も合わせて寄贈してくださいました。寺井会長さんは、「世界では食べ物が十分に食べられない子どももいます。何もしなければ0だけど、少しでも子ども達のために役に立てばありがたいです。」と話されました。頂いた切手は、佐賀市内の高校生が夏休みのボランティアで整理をしてくれました。



【ユニセフからは支援物資の説明をしています】



【毎年、沢山の使用済み切手を頂いています】



【夏休み切手整理ボランティア】

<担当の三宅綾子さんのコメント>

(原稿提供: 三宅綾子さん 取材: 江島 きよ子)

★私は主にボランティアに関する業務に携わっています。社会福祉協議会で働くまで地域でこんなにたくさんの方のボランティアが行われていることを知りませんでした。ボランティアに参加するのは勇気があることかもしれませんが、使用済み切手やプルタブの収集、こども食堂のお手伝いや近所の清掃など、出来ることから少しずつ参加をすることで、ボランティア同士のつながりが出来たり、次のボランティア活動へつながったりすると思います。是非一度、お近くの社会福祉協議会の活動を調べてみて、興味を持ってもらえたらと思います。